特別の教科　道徳　の基礎基本

後藤　忠

紙上演習　道徳授業の発問構成

こうすれば誰でも　的確でシャープな発問がつくれる！

「教材」と「教材提示」と「発問」の相乗効果によって、道徳授業の面白さは何倍にも膨らむ。

今回は、「発問」の作り方を**紙上演習**で行ってみたいと思う。

この演習は、日ごろ私が学校などで行っている研修の内容である。

なぜ紙上で行うのか？　それは諸般の事情により、今までに道徳科の「学習指導過程」についての、とりわけ「発問の作り方」についての基礎的な研修を受ける機会がない（なかった）先生に、その機会を提供したいと考えたからである。

この発問の作り方は基本的にどんな教材にも応用できるので、身につけておくと今後大いに役立つと思う。（しかし、教材の中には全く応用できないものもあるので、そんな時は「なぜその教材は応用できないのか」を考えるよい機会にしていただきたいと思う。）

１　用意するもの

⑴ 教材「はしの上のおおかみ」（「**わたしたちの道徳**」**第 1、2 学年：文部科学省**）のコピー

⑵ プリントアウトした教材分析表（**この資料の 3 ページ目に掲載**）

⑶ 筆記具（鉛筆、消しゴム、定規等）

⑷ 学習指導要領解説　特別の教科 道徳編

２　的確な発問構成のための下準備 Ⅰ

⑴ コピーした教材「はしの上のおおかみ」のすべての行に「行番号」を打つ。

1　山の中の谷川の上に、…

2　長いけれど、せまい橋です。…

3　ある朝のことことでした。…

↓

8　と、おおかみはうさぎをにらみつけました。

（このようにすべての行に通し番号を打っていくと、最後が 47 になる。）

⑵　本時の学習で集中的に考える登場人物を一人決める。（仮に、それを A とする。）

（教材「はしの上のおおかみ」の場合の A は「おおかみ」にする）

ワンポイントアドバイス①

・複数の登場人物の内面を同時に追うと、子どもの思考は混乱し、心情理解が深まらない場合が多いので、『一人を集中的に追いかける』ことを基本にする。

・完全無欠な登場人物より、不完全な（発展途上中の）登場人物 A を選ぶ方が人間理解が深まる。

・よい教材は子供の心を鮮明に映し出す。→　**教材は道徳授業の命！**

３　的確な発問構成のための下準備　Ⅱ
「はしの上のおおかみ」の教材分析を行う

(1)　教材文を精読し、おおかみ（登場人物 A）の内面が微妙に変化するところに着目して、教材文を細かく分けていく。　　（分けた場面に場面番号を打つ。）

☆1　３ページ目に掲載している教材分析表の「場面の概要」欄の行を見本に、「微妙に変化するところ」の目の付け方（のコツ）をつかもう。

> **ワンポイントアドバイス②**
> ・シャープな発問は「**ピンポイント**を問う」ことが大切である。
> ・子どもにとっては、「漠然とした場面」を考えるより、「**ピンポイント**の場面」を考える方が考えやすく、しかも焦点の合った話し合い活動になる。
> ・最初の頃は、「内面が**微妙に変化するところ**」の目の付け方に苦労すると思うが、何回か続けると少しずつ慣れてきて、自然にコツがつかめるようになる。

(2)　各場面での A の内面を**様々な角度から、多様に想像して**すべて書き出す。
（多ければ多いほどよい）

☆2　３ページ目の教材分析表を使い、全場面の「おおかみの内面」を書き出してみよう。

> **ワンポイントアドバイス③**
> ・常識にとらわれず、個々の子どもの顔を思い浮かべながら、多面的・多角的に A の内面を全て書き出す。これは授業中の子どもの発言の予想である。
> ・すべて予想しておけば、授業中の子どもの発言はすべて想定内となり、思いがけない子どもの発言に授業者は戸惑うことがなくなる。
> ・そして、構造的な板書計画に役立つ。

４　作成した教材分析表を基に発問構成を行う

⑴　全場面の中から**中心発問場面**（本時のねらいに最も迫る発問場面※）を１つ決める。

本時のねらいを教材に合わせて翻訳すると**ねらい**が分かりやすくなる。

本時のねらい：　身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする気持ちを育てる。

↓＜翻訳＞

（おおかみが）身近にいる小動物達に温かい心で接するって大切だな、親切にするっていい気持ちだな、よし親切にしよう

※　おおかみの内面が、純粋にこの気持ち↑で満ちている場面を１つ選ぶ！

⑵　次に、中心発問でねらいに迫るために必要不可欠な**基本発問場面**を２つ選ぶ。

> **ワンポイントアドバイス④**
> 中心発問場面が「授業者によって異なる」ことはほとんどない。（中には「友の肖像画」のように中心発問場面候補が複数存在する教材はあるが。）
> しかし、基本発問場面の設定は授業者によって異なることがよくある。それは、児童の実態、授業者の性格、教職経験、授業戦略、授業構想等による違いで、基本発問の選択・設定には授業者の個性が現れる。

⑶　上記３場面の「発問」を具体的に作る。（発問表現・問い方を工夫する。）

☆3　（☆2で内面分析した３場面をよく見ながら）実際に各発問を作ってみよう。

「はしの上のおおかみ」教材分析表　　内容項目　B[親切、思いやり]

＜　わたしたちの道徳　小学校１・２年（文部科学省）　＞

※本時のねらい　身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする気持ちを育てる。

※「場面の概要」欄の数字は場面と行番号を表す。

場面の概要	おおかみの内面	発　問
①1行目～2行目 山の中の谷川の１本橋		
②3行目～10行目 うさぎに「こら、こら」「もどれもどれ」と言う。	・何だ、うさぎか　・弱そうだ　・邪魔だ ・脅かしてやろう　・意地悪してやろう ・俺様が先に通る　・俺は強いぞ　・俺は怖いぞ　・食べちゃうぞ	
③11行目～13行目 うさぎがもどっていく。 「えへん、えへん」		
④14行目～18行目 きつねやたぬきを追い返す。「こら、こら」「もどれもどれ」		

⑤19行目～22行目の読点、⑥22行目の**読点**～23行目、⑦24行目～25行目　は省略

⑧26行～30行 くまがだき上げて、後ろへおろす。		
⑨31行～32行 くまの後ろすがたを見ている。		
⑩33行～42行 うさぎを後ろにおろしてやる。		
⑪43行～47行 「えへん、へん」前よりずっといい気持ち。		

５　演習を終えてから考えてみよう

⑴ 中心発問場面は⑨場面ではないのか？教科書の教師用指導書は⑨場面だが･･･？

確かに⑨場面は重要な場面である。では、教材分析表の⑨の「おおかみの内面」を再度見てみよう。そこには、「くまさん、かっこいいなあ」、「これからはくまさんのまねをしよう」などの内面が書かれていると思う。一方、「うさぎに悪いことをしちゃったな」、「今度、きつねやたぬきにあやまろう」といった気持ちもこの時のおおかみにはあるのではないか。そう考えると、純粋に「本時のねらい」で満ちている場面といえないことになる。やはり、中心発問場面は⑪場面である。

⑵ 中心発問場面さえ外さなければ道徳授業になる！

「基本発問場面の選択は授業者によって異なることがある。それは児童の実態、授業者の個性、教職経験、授業戦略、授業構想等による違い」と述べたが、選択した基本発問場面が果たして効果的であったかどうかについては、よく検証、考察してみなければならない。その発問の適否は子どもが授業で教えてくれるので、「子どもが学ぶ姿」に学びながら授業改善を続けることが真に大切である。それは「評価」の目的でもある。

ちなみに、私は「基本発問場面③ →基本発問場面⑨ →中心発問場面⑪」と発問を構成した。第一発問場面は、②でも③でも④でもよいのだが、中心発問場面⑪の「えへん、へん」と比較した板書構成にしたかったので、あえて③を選んだ。

しかし、私が作った発問構成が「正解だ」と絶対に受け止めないでもらいたい。中心発問場面さえ外していなければ道徳授業になっているのだ…。大切なことは授業者自身が自分で考えて発問を作ることである。**（次ページに私の教材分析と発問構成を載せたので、教材分析のイメージをつかむ上での参考にしてほしい。）**

⑶ 基本的な発問構成のパターンには次の２通りがある。（白抜きは発問順を表す）　❶基本発問 →❷基本発問 →❸中心発問 ＆ ❶基本発問 →❷中心発問 →❸基本発問

⑷ 長文の教材を使用する場合の発問構成はどうしたらよいか？

「教材提示」を最優先する。長文だからと早口で読んだり、間を取らずに読んだりしてはならない。せっかくの教材が台無しになってしまう。授業時間の調整は発問数で行う。**基本発問 1＋中心発問**、あるいは**中心発問だけ**の場合もあり得る。

６　まとめに代えて

「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」には道徳科の学習指導過程を「導入」「展開」「終末」から解説している。それはそれでよいのだが、今後、「自己を見つめ、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める」学習がより重視されていくことを考えると、「展開」部分を ⑴教材を基に考える**展開の前段**と、⑵展開の前段で学習したことを基に自己を見つめ、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める**展開の後段**とを区別して学習指導過程を計画する方が分かりやすいと思う。

いずれにしても、この発問構成演習は、**展開の前段**の発問構成の仕方（作り方）についてのものである。

導入、**展開の後段**、**終末**の作り方については、INDEX **A 道徳科学習指導案作成(超)×3入門**の中で述べているので、それを参考にして研鑽を積んでいただきたい。

参考:「はしの上のおおかみ」**後藤の教材分析**　　内容　B[親切、思いやり]

＜わたしたちの道徳　小学校１・２年（文科省）＞

場面の概要	おおかみの内面	発　問
①1行目～2行目 山の中の谷川の1本橋		
②3行目～10行目 うさぎに「こら、こら」「もどれもどれ」と言う。	・何だ、うさぎか　・弱そうだ　・邪魔だ　・脅かしてやろう　・意地悪してやろう　・俺様が先に通る　・俺は強いぞ　・俺は怖いぞ　・食べちゃうぞ	
③11行目～13行目 うさぎがもどっていく。「えへん、えへん」	・いじわるって面白いな　・威張るって楽しいな　・いい気持ち　・俺は強い　・参ったか　・もっとやりたい　・次は誰かな　・だれか来ないかなあ	「えへん、えへん」と言ってうさぎの後ろ姿を見ているおおかみは、どんな気持ちでしょう。
④14行目～18行目 きつねやたぬきを追い返す。「こら、こら」「もどれもどれ」	・きつねもたぬきも弱いな　・また戻らせた　・たまらないな　・いじわるって面白いな　・楽しいな　・次は誰かな　・森の動物みんなにいじわるがしたい　・俺は一番強い	

⑤19行目～22行目の読点、⑥22行目の**読点**～23行目、⑦24行目～25行目　は省略

⑧26行～30行 くまがだき上げて、後ろへおろす。	・えっ！何で？　・怖かった　・やさしいな　・ありがとう　・ホッとした　・落とされなくてよかった　・嬉しいなあ　・親切だなあ　・怖いくまじゃなくてよかった　・こんな方法があったんだ	
⑨31行～32行 くまの後ろすがたを見ている。	・かっこいいなあ　・やっつけられると思った　・びっくりした　・大きい背中だなあ　・また会いたいなあ　・俺もこうすればよかった　・ありがとうと言えばよかった　・小さい動物たちに悪いことしたな　・謝ろう　・優しいくまだな　・どこに行くんだろう　・くまみたいになりたいな　・今度からくまみたいにしよう	いつまでもくまの後ろ姿を見ながら、おおかみはどんなことを思っていたでしょう。
⑩33行～42行 うさぎを後ろにおろしてやる。	・引き返さないで　・もう怖がらなくて大丈夫　・いい方法があるよ　・優しくするよ　・意地悪しないよ　・親切にするよ　・いい方法だろ？　・うさぎは喜ぶかな　・うさぎはびっくりしたかな　・うさぎは軽いな	
⑪43行～47行 「えへん、へん」 前よりずっといい気持ち。	・親切にするっていい気持ち　・うさぎが喜んで嬉しい・意地悪していたときよりいい気持ち　・まえの「えへん、えへん」と全然違う　・今の方がずっといい　・親切にするといい気持ちになれるんだ　・意地悪はやめた・小さい動物には優しくしよう　・もっともっと優しくしよう　・これからずっとこんな気持ちでいよう	「えへん、へん」、「これにかぎるぞ」と言ったおおかみはどんなことを考えたと思いますか。